

オンライン日本語コースと地域コミュニティをつなぐ

丹波篠山プロジェクト

貴志佳子 (Case Western Reserve University)

Tambasayama Project connecting an Online Japanese Language Course with the Local Community

1. 背景

- 1-1 オンライン授業となった北米大学の上級日本語コース
JAPN302 Advanced Japanese II と JAPN351 Contemporary Japanese Texts II (2021年の春学期、2月～5月、週2回・75分)
- 1-2 篠山イノベーターズスクール (兵庫県丹波篠山市)
「農村のもつ新しい価値の創造をめざす起業・継業スクール」 (<https://school.tscapital.jp/>)

2. 日本語コースと丹波篠山コミュニティをつなぐ意義

佐藤 (2016) 「社会・コミュニティ参加をめざす日本語教育」 → コミュニティのメンバーとしての責任を担うことをめざす日本語教育

⇒ 日本語コースの受講者が丹波篠山がもつ価値を発見し、調べて、そのコミュニティに発表会で伝える

3. 実践概要

- 対象** 上記の日本語コースの受講者学部生 11名 (母語: 英語8名、中国語3名)
- 教授法** **CBI** (Content-Based Instruction)
内容 (丹波篠山の地域) の理解を深めることを焦点にして日本語習得を図る
- ゲスト講義** 丹波篠山のガイド2名、篠山イノベーターズスクール講師1名 (各1時間)

シラバス 学期中の約2ヶ月間

- 3月 プロジェクトの紹介、オンライン講義3回
- 4月 テーマ決定、リサーチ、講師とのミーティング、発表の準備
- 5月5日 オンライン発表会 (受講者、丹波篠山関連の参加者、地域の小学生)

学生の発表の題目の例

学生A	「丹波焼」
学生B	「丹波篠山の味」
学生C	「丹波篠山の野生動物」
学生D	「篠山春日能」

4. 成果 (発表会と参加者のコメント)

- 日本からの発表会への参加者は、第一部 (21名)、第二部 (19名)
- 地域の小学5年生 (18名) と6年生 (18名) との交流
- スクール受講者、観光協会、小学生、大学生から発表者へコメント
- 発表によって自分の住む地域について学ぶ機会を得た
- 大学生の参加者に学習意欲を与える

小学生「春日能を知らなかったが、家族と見に行きたい」

大学生「この発表のように外国の伝統や歴史を自分も調べたい」

5. 課題

- 日本語で資料が読める読解力が必要なことが前提
- オンライン上の資料を見つけることの難しさ
- 小学生との発表交流は、小学生に伝わる発表の工夫が必要

参考文献

- 佐藤慎司 (2018) 「教室から社会、社会から教室へ」 pp.22-42 (トムソン木下千尋編 『人とつながり、世界とつながる日本語教育』 くるしお出版)
- 近松暢子 (2009) 『米国におけるコンテンツ・コミュニティベース授業の試み-米国シカゴ日系人史-』 世界の日本語教育. 日本語教育論集, 19, pp.141-156